

## 第七表　淺間山噴火（其二）

明治二十七年ヨリ同四十二年十一月ニ至ル

年 (西暦)	月	日	記	事
明治二十七年(一八九四)	四月	六日		
同	四月	十一日		
同	四月	十七日		
同	四月	廿八日		
同	四月	三十日		
同	五月	五日		
同	五月	十三日		

午前十時鳴動黒烟ヲ噴出ス別去茶屋附近ニテハ石及ビ灰ヲ降ラズ「西群馬郡濺川町ニテハ午前九時頃雨降リ雨中ニ灰ヲ混ジタリ。」(明治二十七年四月八日上毛新聞)

午後九時大鳴動降灰。火石ヲ飛バシ、黒烟天ニ冲シ灰ヲ降セリ、其狀最モ猛烈ナリシモ七八分ニシテ止ム、今回ノ如キハ稀有ニシテ二十數年來始メテナリト云フ。十四日午前三時淺間山近傍ニ強震アリ。(長野縣報告)

午前八時噴烟甚ダシ。山麓小沼村地方ニハ降砂アリ、臼田附近ニモ灰ヲ降ラス。黒烟ハ垂直ニ山頂ヨリ奔騰シ小諸邊ニテハ仰テ之ヲ見ル程ニシテ山高ノ七倍餘ニ達セリト云フ。山梨縣中巨摩郡ニテハ午前九時三十分頃ヨリ十時過ギマデ輕風ト共ニ黑色ノ灰ヲ降ラセタリ。(震災豫防調査會報告)

午後六時二十分噴火シ、同夜十一時頃ニハ天邊紅ヲ呈セリ。(明治二十七年五月四日中外)

(新商業)

午前零時五分淺間山ノ鳴動噴烟甚ダシク一發ノ大砲ヲ放チタルガ如ク、輕井澤地方ニ於テハ戸障子ヲ動搖セシメ、之ト同時ニ黑烟盛ニ噴出シ東北ニ鑿竊キ凡ソ十五分ニシテ止ミタリ。(長野縣報告)

午前七時十五分噴烟ス。微量ノ降灰アリシモ地上ニ積ルニ至ラズ。(長野縣)

噴烟。降灰ハ上州安中地方最モ甚ダシカリキ。(明治二十七年五月十日東京日々新聞)

年 (西暦)

月 日

記 事

明治二十七年(一八九四)

同

五月廿五日  
六月十四日午後六時噴烟ス、鳴動ナシ。  
(長野縣報告)

前橋市及ビ近傍ニテハ午前九時三十分頃轟然トシテ巨砲ノ如キ音ヲ聞キ、暫時ニシテ降灰アリ、其間殆ド二時間餘積ルコト一分許リ、降灰ノ量ハ徑一尺ノ圓皿ニ七分強アリ。高崎町及其近傍(西群馬郡)ニテモ近距離ニ於テ大砲ヲ放チシガ如キ音聲アリ、建物ノ動搖ヲ感ズ、十時三十分ヨリ夥シク細砂ヲ降ラシ降砂ノ量ハ方三尺ノ場所ニ於テ一匁六分餘ヲ採集セラレタリ。安中町近邊(碓冰郡)ニテモ鳴動アリ約二十分ヲ經テ細砂降ルコト十五分許、堆積セザルモ地上斑白ヲ呈セリ。松井田町地方モ同様ノ狀況ナリシガ磯部温泉地近邊ハ唯鳴動ヲ聞ケル迄ナリキ。濁川町及其附近(西群馬郡)ニテハ雷鳴ノ如キ音響ヲ聞キ十一時頃ヨリ降灰アリ二時間餘ニシテ止ム。玉村町及ビ其附近(那波郡)ニテハ降灰ノタメ一時着衣ヲ白カラシメタリ。木崎町及其近郷(新田郡)ニテハ爆聲ヲ聞キ、十一時後ヨリ凡ソ三四十分間降砂、地上白色ヲ現セリ。伊勢崎町附近(佐伊郡)ハ木崎町ト同様ナリ。長野原及附近(吾妻郡)ニテハ降灰アリ、鳴動最モ甚シク、家屋振動セリ。  
(群馬縣廳報告)

前橋ニテハ午前九時過ギ遠雷ノ鳴ルガ如キ響アリ十一時二十分頃ニ至リ朝來ノ快晴稍ヤ黯雲ヲ催シ來ルト共ニ細雨ノ如ク砂灰ヲ降ラシ、二十分許ニシテ一層烈シク正午半頃陰雲ノ益催シ來ルト共ニ漸次降リ止ミタリ而シテ最初ハ砂多クシテ灰少ナク、終リニ至ルニ從ヒテ灰多ク砂之ニ混

明治三十二年（一八九九）  
同 同 同

三月十一日  
七月十五日  
八月七日

ジタリ。（明治二十七年六月十五日上毛新聞）

九時半非常ニ鳴動噴烟シ近傍ノ人家振動セリ。

（長野縣知事電報）

栃木縣下都賀郡小野寺村ニテハ十四日午後一時頃一大鳴動アリ、降灰スルコト五六十分間ニ及ベリ。（明治二十七年六月十九日宇都宮關東新聞）

午後一時黒煙ヲ揚ゲ、草津ニテ鳴動五分間ニ及ブ。（明治三十二年三月十九日東京朝日新聞）  
夜噴火ス。（明治三十二年七月十二日時事新報）

午前十一時頃鳴動噴烟シ、長野原町附近ニ降灰アリ。（明治三十二年七月十九日上州新報）  
八月始メ迄デ時々噴出アリ。

午後七時二十五分大ニ鳴動シ輕井澤ニテハ巨砲ヲ放テルガ如キ大音響アリ、烈シク振動ヲ感ズ、七日夜上野國前橋、高崎、伊勢崎地方、常陸國各地方ニモ振動アリ降灰ス、尾張國津島地方ニテハ同夜七時三十分頃北東ニ當リ鳴動ヲ聞キタリ。（明治三十二年八月十一日時事新報）

前橋ニテハ夜八時頃降灰アリ、碓氷、群馬、佐波、新田ノ各郡ニモ降灰ス。（明治三十二年八月九日上毛新聞）  
下野佐野地方ニ降灰ス、安中町ニテハ午後八時二十分頃降灰ス。（明治三十二年八月十日東京日々新聞）  
八日午前三四時頃、新治郡石岡町近邊ニ降灰アリ。（明治三十二年八月九日茨城日報）  
七日午後七時頃ヨリ足利郡、安蘇郡ニ降灰アリ小山、小金井等及ビ附近ニモ降灰アリ。（明治三十二年八月十日下野新聞）  
足利町ニテハ七日午後六時十分頃遠雷ノ如キ鳴響アリ八時頃ニ至リ降砂シ五厘程積レル所アリ、下館ニテモ七日十時頃ニ至リ降砂アリ十一時廿分頃ニ止ミタリ。

（明治三十二年八月十日報知新聞）

年 (西暦)

月 日

記 事

明治三十三年(一九〇〇)

一月廿二日

名古屋市ニテハ七日午後七時三十四分北東方ニ鳴響ヲ聞ク、恰モ巨砲ヲ發シタルガ如キ音ニシテ往々戸障子ノ振動ヲ感ジタル向キアリ、其一響ニ踵ギ更ニ一二聲ヲ聞キタルモアリ。長野、松本、飯田ノ三測候所ニテハ何等ノ鳴響ヲモ聞カザリシト云フ。(明治三十二年八月十一日新愛知)

午前六時四十分大鳴動アリ強ク家屋ヲ振動シ、高ク黒煙ヲ噴出シタリ、折節微西風アリシガ、西長倉以西ノ地ニハ降灰ナカリキ。(明治三十三年一月二十五日信濃毎日新聞)「當時山頂ノ風位ハ北西ナリシガ風下ニ當リシ地方ハ多少ノ降灰砂アリ、輕井澤小沼村ニハ碎石ヲ墜下セリ其大ナルモノニ至リテハ重量二匁乃至五匁ナリ。(長野縣公報)」午前九時頃ヨリ十時頃迄デ埼玉縣浦和、大宮、岩槻、熊谷、栗橋、等ニ降灰アリ、就中大宮、浦和、川越邊ハ厚サ二分程ニ達セリ。(明治三十三年一月二十三日時事新報)」二十二日午前十時頃ヨリ千葉地方及ビ府下本所邊ニ降灰アリ。(同日、東京日々新聞)「上州碓氷郡磯部、松井田、横川等ハ積雪全ク灰色ニ變ジ、又高崎附近ニテモ雨ニ混ジテ降灰シ十時頃ニ止ミタリ。(明治三十三年一月廿一日東京朝日新聞)

午前六時四十分頃ニ轟然爆發シテ黒煙天ニ漲リ恰モ煙火ノ如キ美麗ナル火光ヲ發シ凡ソ三十分間ニシテ衰退セリ、噴煙ハ南東方向ヲ取リテ上野國富岡方面ニ向ヒシガ當時ハ殊ニ靜穩ナル天氣ニシテ一片ノ雲影ナク、風力亦極メテ微弱ナリシガ黒煙ノ通過スルヤ、先ズ稍粗鬆ナル燒砂ヲ降下シ次第ニ細粉狀ノモノトナリ凡十五分間ヲ經タル後全ク青白色ノ火山

同

同

二月九日

一月卅一日  
二月七日

灰トナリ、降灰繼續時間ハ各地方ニ於テ相異アリ、短キハ數分時ニ過ギザリシモ長キハ一時間以上ニ涉レリ、同山ニ近接セル地方ニアリテハ概ネ降砂大ニシテ其量多カリシモ降砂時間短ク反之遠隔ノ地方ニアリテハ降灰時間長キモ降量寡ナカリキ、降灰區域面積ハ約三百方里ニシテ其最遠距離ニアルハ南東約五十里ヲ距ル上總國山武郡海岸ニシテ餘勢ハ海洋ニ出タルモノ、如ク幅員ノ大ナル處ニテハ八里餘ニ達セリ、輕井澤近傍ニテハ初メ爆音ト共ニ家屋ノ動搖アリ人々戸外ニ飛出セシガ燒砂ノ降落スルコト夥シク徑一寸位ノ燒石ヲ混ジ其勢淒然タリシモ四分時ヲ經テ粉灰ニ變ジ漸次ニ衰減セリ。上總國東金近傍ハ淺間山ヲ去ル約五十里ニシテ此地方ニ於ケル降灰時刻ハ平均八時三十分ナルガ故ニ噴火時刻ヨリ後ル、コト一時五十分ナリ、此ヨリ算スル時ハ氣流ノ速度ハ一秒時間二十米ヲ降ラザルベキ割合トナル。(中央氣象臺報告)

午前三時十分鳴動ス、ド……ト遠雷ノ如キ弱キ爆音アリ、岩村田地方ニテハ家屋ヲ振動セリ。(明治三十三年二月一日信濃毎日新聞)

午後六時五分汽車人軋ルガ如キ或ハ遠雷ニ似タル響アリ黒煙天ニ漲リ、其中ニ電閃、火球ヲ見ル、二三分ニシテ止ム。(長野縣廳報告) 降灰區域ノ中央軸ハ東十五度北ノ方向ヲ取リ、村尾、日光、矢板等ノ諸村落ヲ經テ那須黒羽村近傍ニ達セリ、其延長四十里ニシテ降灰面積凡百八十方里ナリ。(中央氣象臺報告)

年 (西暦)

月 日

記 事

明治三十三年(一九〇〇)

二月十四日

噴火ハ午前五時過ニシテ連續一時間餘ニ涉リ噴煙稍ヤ熾ナリシガ煙ハ東十度南ノ方向ヲ取リテ進行シ前橋市ノ南半部ヨリ桐生柄木地方ノ一部ヲ過ギテ水戸市ニ到ル延長四十五里ニシテ降灰區域ノ面積ハ二百三十方里ニ達セリ。(中央氣象臺報告)」水戸ニテハ午前五時五十分ヨリ降灰、七時二十分最モ甚シク七時三十分ヨリ微少トナリ、十時ニ至リテ止ム。(明治三十三年二月十六日東京日日新聞)

同

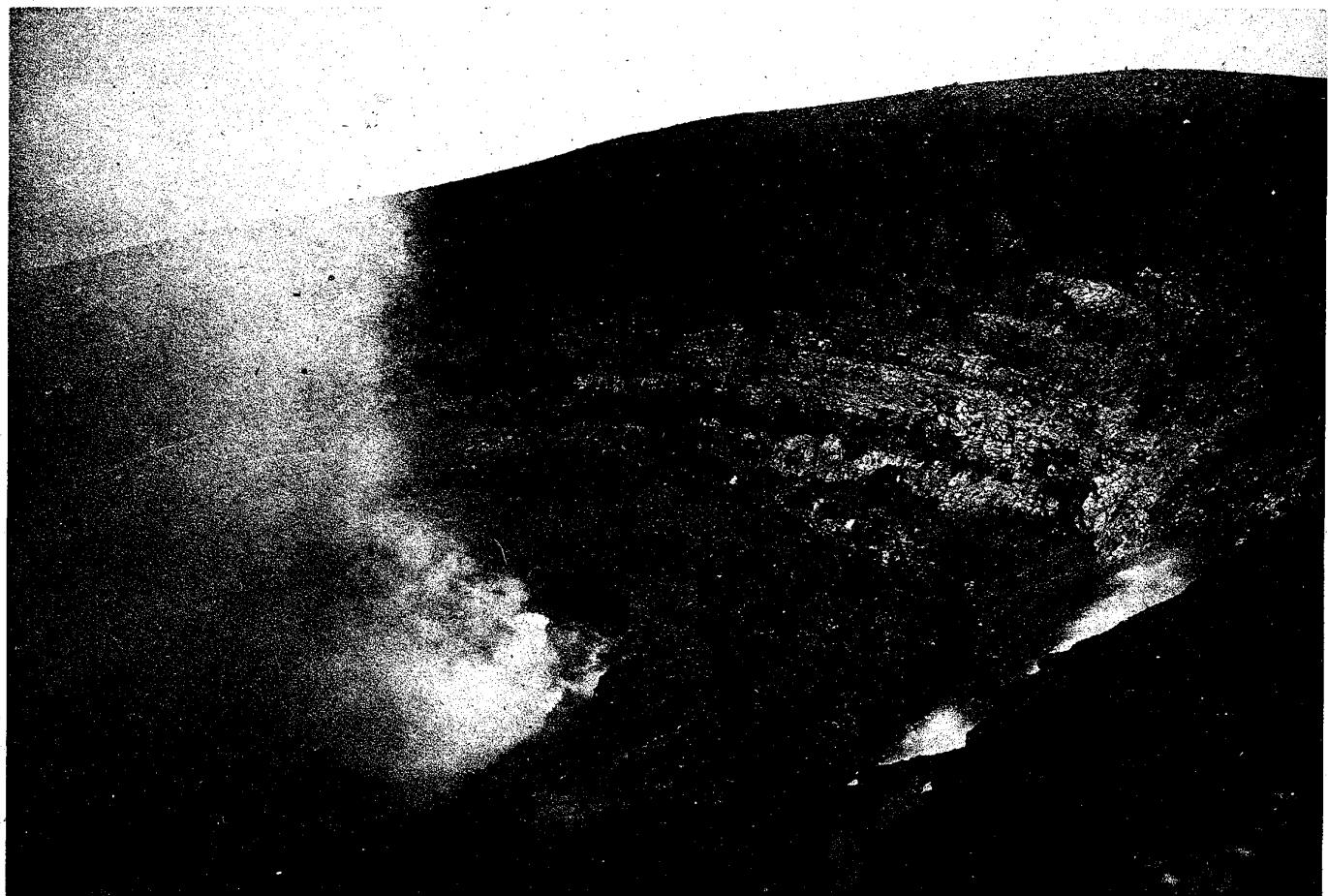
二月十九日

新聞

信濃國北佐久郡小沼村ニテハ午後四時五十分大鳴動アリ、之ガ爲メ戸ノ外レタル程ニテ四時迄デノ間ニ引キ續キ數回鳴動アリ黒煙ハ同村ノ上マデ覆ヒタリ。北佐久郡平根村ニテハ大砲ノ如キ音響數回アリ又汽車ノキシルガ如キ響數回アリ。(明治三十三年二月廿二日信濃毎日新聞)」輕井澤方面ニ降灰アリ、往々大豆大ノ鎔岩碎片ヲ交ヘタリ。(長野縣公報)」降灰區域ハ一月二十二日ニ於ケルモノト略同一ナリシモ噴煙稍ヤ微弱ナリシガ爲メ降灰ハ漸ク岩櫻邊ヲ境トシ夫ヨリ以南ニハ達セズ、延長三十餘里ニシテ降灰面積ハ百五十方里ナリキ。(中央氣象臺報告)

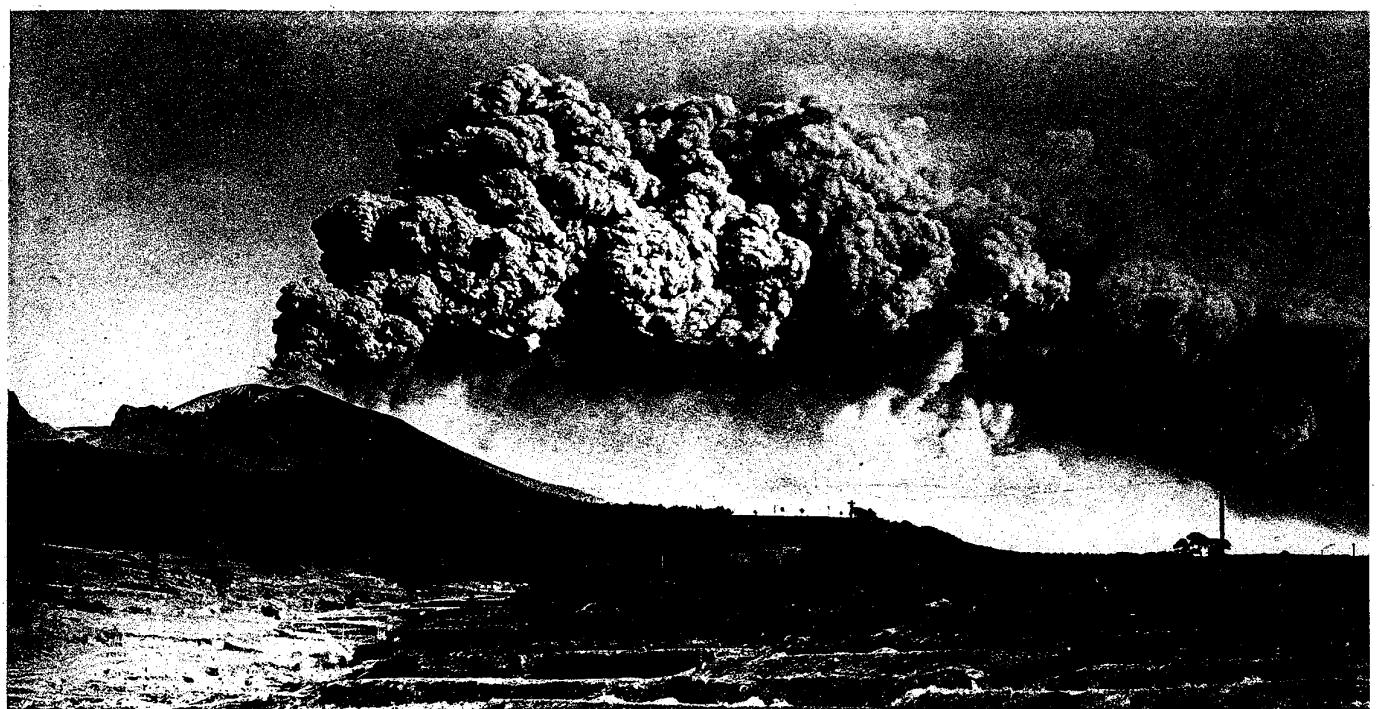
安中町地方ニテハ午後七時三十分ヨリ十一時迄デ降灰アリ上毛新聞一枚ノ上ニ積レル灰量五匁ニシテ重サ十三匁ナリシト云フ、群馬郡ノ一部ニモ降灰セリ。(明治三十三年二月二十三日上毛新聞)

# 火噴ノ山間淺



第三圖 山間淺ノ噴火孔 = 底岩露ノ輪渦アリ

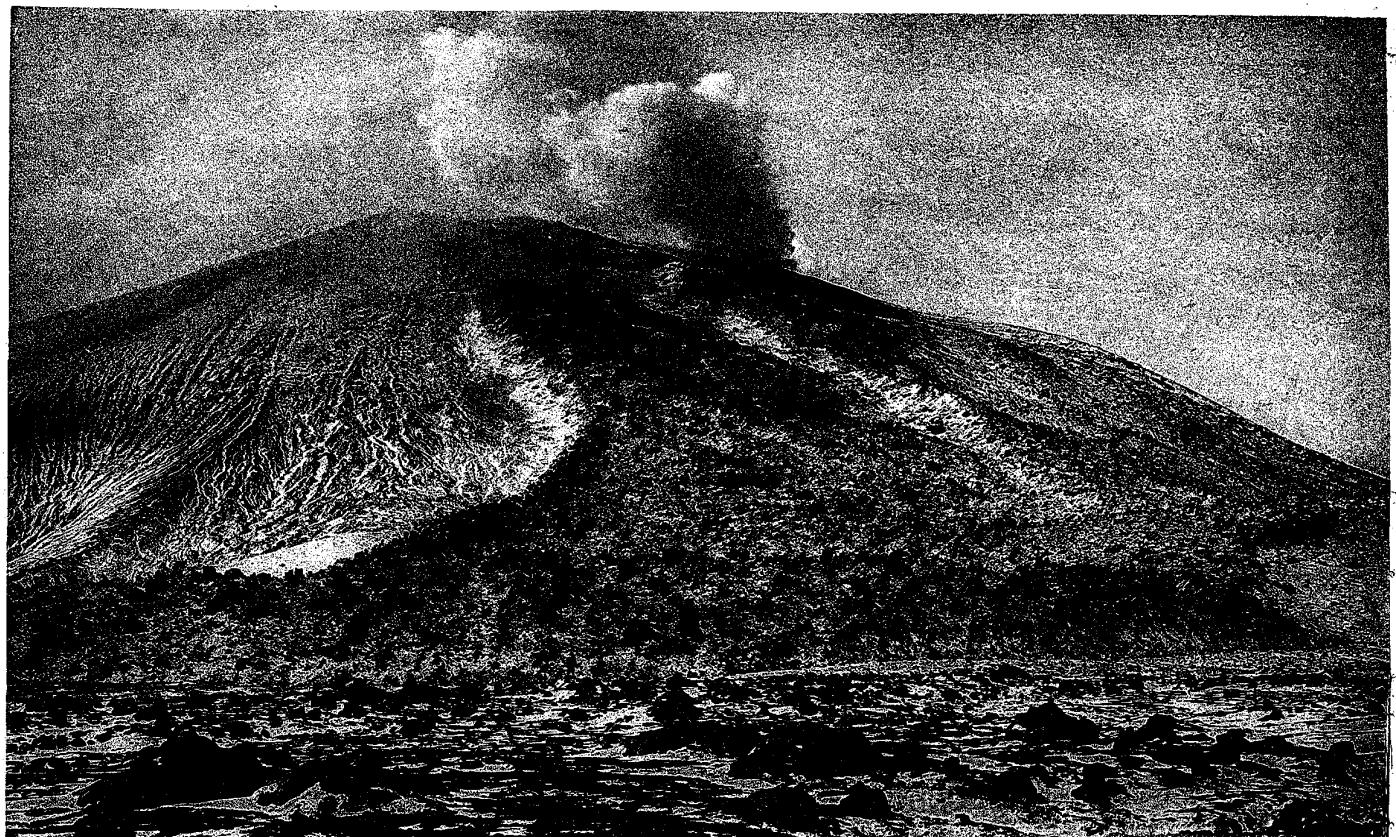
明治四十五年七月二日大森撮影



第四圖 大正元年十月四日ノ噴火 (ムリヨ諸小) 望ム

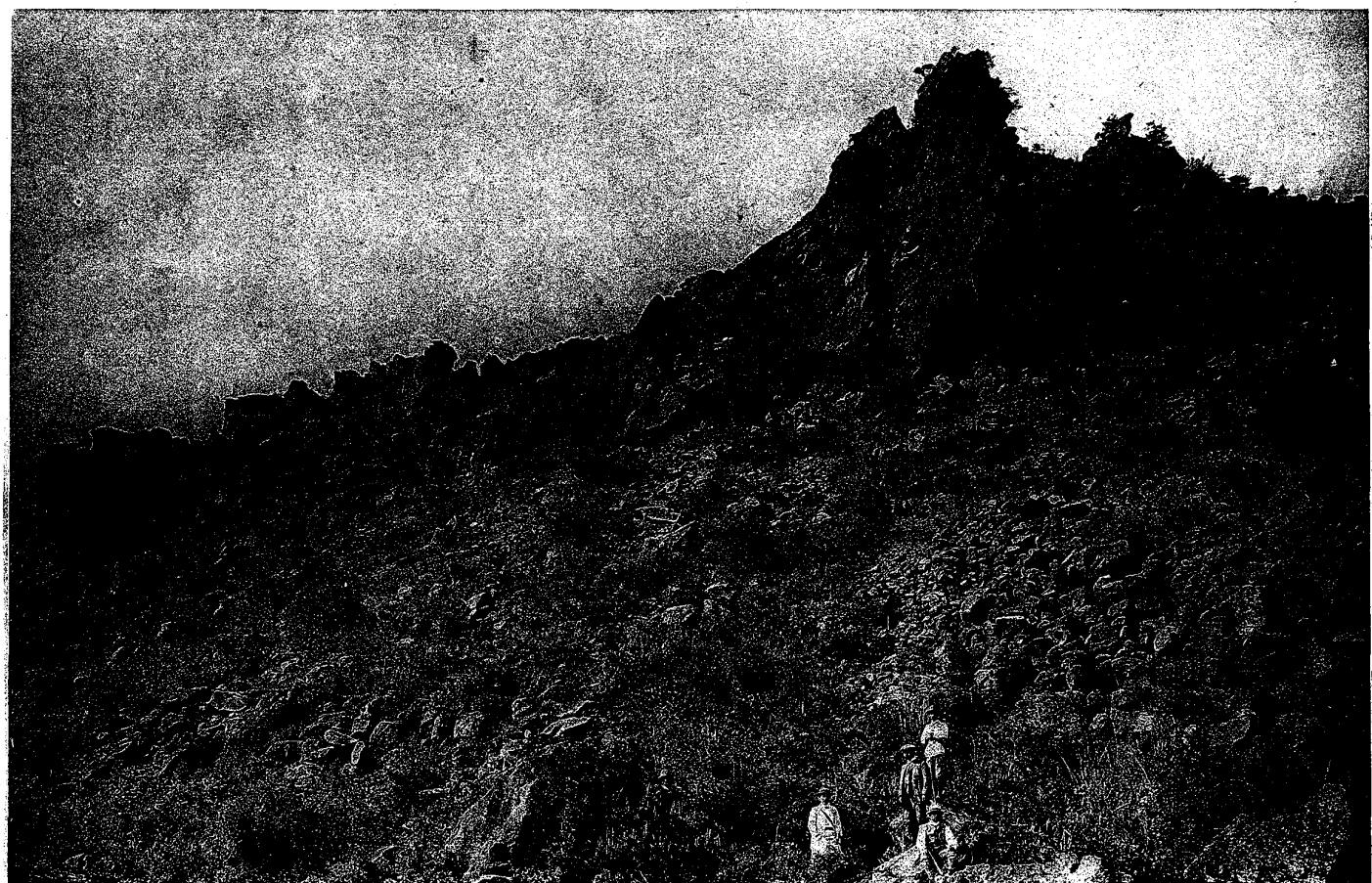
小諸町魚津寫真館撮影

第五圖 淺間山鎔岩流



ム望リヨ上臺舞側北 (流岩鎔)出押鬼ノ山間淺年三明天

第六圖 肥前國溫泉岳鎔岩流



端下ノ(燒新)岩鎔泉溫原島政寬四年

同

同

同

同

同

同

同

同

同

明治三十四年（一九〇二）

三月一日

三月十八日  
三月廿一日

未明大噴煙アリ。（明治三十三年三月）一日正午ノ噴煙ハ頗ル凄ジク鳴動ハドント音シタリ、山麓小沼村ニラハ殆ド毎日毎夜鳴動ヲ聞キ戸障子振動スト云フ。（同）

午前四時宇都宮ニテ轟然タル爆音アリ戸障子ヲ振動ス。（明治三十三年三月廿）午前零時過ギ一回ノ鳴動アリ、六時頃迄ニ尙三回鳴動セリ、臼田警察署ノ一巡查ハ當時恰モ犯人逮捕ノ爲メ夜外ニアリシガ俄ニ一天明ルクナリシガ爲メ火事ト思フ間モナク大鳴動アリ、黒煙中ニ數多ノ電光アリ、山腹ニハ火玉ノ如ク燒石ノ落下セルヲ目擊セリト云フ。（明治三十三年三月廿）午後三時十分頃大鳴動アリ降灰ス。（明治三十三年四月五日中央新聞）

午前十一時頃ヨリ足利町ニ微量ノ降灰アリ。（明治三十三年四月八日下野新聞）

午後六時二十三分噴煙ス。（明治三十三年九月三日高田新聞）

午後四時半頃鳴動噴煙ス。（明治三十三年十二月廿三日信濃毎日新聞）

松井田ニテハ午前四時淺間山ノ小鳴動ヲ聞キ降灰アリ。（明治三十三年十二月十五日上毛新聞）

午後五時頃噴煙ス。（明治三十四年三月二十日信濃毎日新聞）

午後三時十分噴煙ス。（明治三十四年三月二十日信濃毎日新聞）

午後零時二十五分、同五時ノ二回噴煙シ、午後七時半頃ヨリ岩村田附近ニ降灰ス。翌二十一日午前十時半頃ニモ噴煙ス。（明治三十四年四月廿五日東京日々新聞）

二十五日午前十時五十分、二十六日午後二時ノ二回噴煙シ、小沼村ニ降灰ス。（明治三十四年五月廿一日東北新聞）正午頃前橋市附近ニ降灰ス。（明治三十四年五月三十日群馬新聞）東

京小石川、本郷方面ハ五月廿九日午後二時四十分頃大雨雷鳴アリ雨ノ小

年 (西暦) 月 日 記事

明治三十四年(一九〇一)

六月十日

歇トナリシ頃指ヶ谷町、餌差町、白山御殿町ヨリ本郷駒込邊へカケテ微量ノ降灰アリ。(明治三十四年六月二日都新聞)

午後七時二十分噴煙ス。(明治三十四年六月二十日信濃毎日新聞)

午後六時二十分夥シク噴煙ス。(明治三十四年六月十八日信濃毎日新聞)

夕暮噴煙シ、輕井澤邊ニ夥シク降灰シ、岩村田附近ニモ微量ノ降灰アリ。

(明治三十四年七月廿四日高田新聞)

六日午前七時、午後二時、四時十五分、六時五分、八時十五分トニ五回噴煙ス。

七日午前二回、午後三回噴煙ス、八日午前七時ニモ噴煙ス。七日第五回

目、即チ午後七時三十分噴煙ノトキハ約一時間後、南佐久郡中込原以南迄デモ降灰セリ。(明治三十四年八月八日十日信濃毎日新聞)

朝七時頃ヨリ九時頃迄デ噴煙ス。(明治三十四年八月十日信濃毎日新聞)

二十日午前十時十分、同四時、二十一日午前五時廿五分噴煙ス。(明治三十四年八月廿二日信濃毎日新聞)

長野原町附近ニテハ二十一日午前七時半頃ヨリ降灰セリ。

(明治三十四年八月廿五日上毛新聞)

前橋ニ降灰ス。(明治三十四年十月十五日時事新報)

午前十一時二十分噴煙ス。(明治三十五年二月七日信濃毎日新聞)

同

八月廿一日

八月十五日廿一日及ビ

八月廿一日六日乃至

明治三十六年(一九〇三)

五月廿八日

同

十月十三日

前橋ニ降灰ス。(明治三十五年八月廿五日上毛新聞)

同

二月七日

同

八月廿一日

同

明治三十五年(一九〇二)

五月廿八日

同

十月十三日

前橋ニ降灰ス。(明治三十五年八月廿五日上毛新聞)

同

二月七日

同

八月廿一日

同

明治三十六年(一九〇三)

明治三十七年(一九〇四)	同	六月三十日	午前八時頃噴煙ス。(明治三十六年七月三日上毛新聞)
明治三十八年(一九〇五)	同	八月四日	正午頃小諸地方ニ降灰シ、荒町以西ハ微量ナリシモ與良町附近ハ稍ヤ多 カリキ。(明治三十七年八月廿二日信濃毎日新聞)
明治三十九年(一九〇六)	同	十月四月六日	二十日ヨリ二十八日迄、間断ナク、鳴動セリ。(明治三十八年十一月一日群馬新聞)
明治四十一年(一九〇八)	同	四月二十日	早朝ヨリ噴煙ス。(明治三十九年四月廿二日中央新聞)
明治四十一年(一九〇八)	同	五月七日	早曉ヨリ鳴動シ、正午頃ニ至リ、一時止ミタリシモ後再ビ鳴動ヲ繼續ス。(明治三十九年四月廿二日中央新聞)
明治四十一年(一九〇八)	同	一月十八日	今朝鳴動ス。(明治三十九年五月八日時事新報)
明治四十一年(一九〇八)	同	三月廿八日	十八日夜ヨリ十九日朝マデ噴火シ、火柱ノ天ニ冲スルガ如クナリシト云 フ。(明治四十年一月廿一日東京朝日新聞)
明治四十一年(一九〇八)	同	八月廿四日	午前六時頃鳴動シ、安中町地方ニ降灰ス。(明治四十年三月三十日時事新報)
明治四十一年(一九〇八)	同	二月十三日	〔六月頃及ビ十月頃ニ至リ、時々噴煙シ、夜間ハ火炎ヲ認ム〕 〔以下震災豫防調査會報告書ニヨル〕
明治四十一年(一九〇八)	同	八月廿一日	早朝噴煙、降灰。
明治四十一年(一九〇八)	同	九月十六日	夕刻噴煙ス。
明治四十一年(一九〇八)	同	十月廿九日	午後十一時鳴動、噴煙。
明治四十二年(一九〇九)	同	十一月廿一日	午前三時鳴動、噴煙。
明治四十二年(一九〇九)	同	十二月廿九日	午後八時噴火。
明治四十二年(一九〇九)	同	一月廿九日	二十一日ヨリ二十三日迄、數回ノ鳴動アリ、小諸ニ降灰ス。
明治四十二年(一九〇九)	同	二月廿九日	午後五時頃強ク破裂シ、岩村田、小諸、御代田等ニテ鳴動ノ爲メ多少ノ 損害ヲ生ズ。

年 (西暦)

月 日

記 事

明治四十二年(一九〇九)

二月二日

午後二時ヨリ三時ノ間ニ鳴動二回アリ、噴煙ス。

同 同 同 同

四月二日

淺間山噴煙(?)午前七時頃ヨリ約二十分間高崎及ビ前橋ニ降灰アリ。

五月卅一日

午後十一時二十五分強ク爆發シ、轟然タル劇響ト共ニ火煙柱ヲ高ク噴騰セシム、約二十分ニシテ鎮靜シタリ、淺間山腹ニ合目長坂ニテハ徑五分ナル小石ノ落下アリ、湯ノ平附近ニ落下セル燒石ハ大ナルモノ径一尺ニシテ地面ニ徑三尺、深サ一二尺ノ孔ヲ穿チタルモノアリ、山頂ニ至レバ長サ二三間ノ大岩塊所々ニ横タハリ噴出後五日間ヲ經過セルモノ尙ホ熱ヲ保有シ長ク傍ニ立チ止マルコト能ハザリシト云フ。此ノ噴火ノ降灰面積ハ粗ボ淺間山ヲ中心トシ東北、西南へ延長スル約十四里ノ區域ニシテ、

鳴響ヲ聞キタルハ直徑約二十里ノ圓形區域ナリキ。

淺間山噴煙シ下野國足利、佐野及ビ常陸國真壁、結城、下館、北條、柿岡等ニ降灰ス。

午後六時長野原ニテ鳴動ヲ聞ク、約二十分間繼續ス、黒煙ノ噴出アリ。

七月廿一日

午前十時頃鳴動アリ、噴煙ニハ異狀ヲ認メズ。

同 同 同 同

八月廿一日

午前十時頃鳴動アリ、噴煙ニハ異狀ヲ認メズ。

「此ノ以後ハ淺間山ノ活動著大トナリ、噴火調査モ頗ル精密トナレリ、明治四十四年ニハ淺間山湯ノ平ニ觀測所ノ設立アリ。」